

埋め込み型カテーテル製品 テルモ子会社 本格参入



特殊コーティングされたカテーテルとポート
＝各務原市川島竹早町、テルモ・クリニカルサ
プライ

「クリニカルサプライ」本社工場で生産

テルモの子会社で、医療機器製造販売のテルモ・クリニカルサプライ（各務原市川島竹早町、星野正紀社長）は12月から、血液が固まらない特殊コーティングを施したカテーテルを使った皮下植え込み型薬液注入システム「DewX（デュークス）」を販売する。患者への負担が少なく、一般に「CVポート」と呼ばれる同システムの製品は現在、海外で開発・生産されたものが主流。同社はテルモの技術で合併症発生リスクを低減させた製品を開発し、この市場に本格参入する。本社工場で生産、2015年3月に売上高1億円を目指す。

CVポートは中心静脈カテーテルの一種。本体とカテーテルを埋

め込み、薬剤や栄養剤を本体を通じて体内に投与する。近年、がん治療の外来化学療法や在宅での中心静脈栄養が普及。その際、ポートを使えば血管に直接針を通さないことから血管の損傷や痛みの軽減につながるため、使用が増えているという。

同社は、主流となっている静脈に取り付ける全身化学療法に対応したポートを開発。血液が触れる本体内面や

ポリウレタン製カテーテルの内外面に、血液や血漿（けっしょう）タンパクの吸着を抑制するテルモのXコーティング技術を応用し、血管やカテーテルの閉塞（へいそく）な減した。

どに起因する合併症のリスクを低減させた。ポートを埋め込む際に使う針をエコー対応にし、血管に空気が入らない弁も採用。医師ら

の医療事故リスクを軽減している。ポートは前胸部用と前腕・上腕用の2タイプを用意。全国の医療機関向けに販売する。担当者は「改良を重ねて、日本人に合った安全な製品となった」としている。